平成３０年～令和４年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
（劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業）
成果報告書

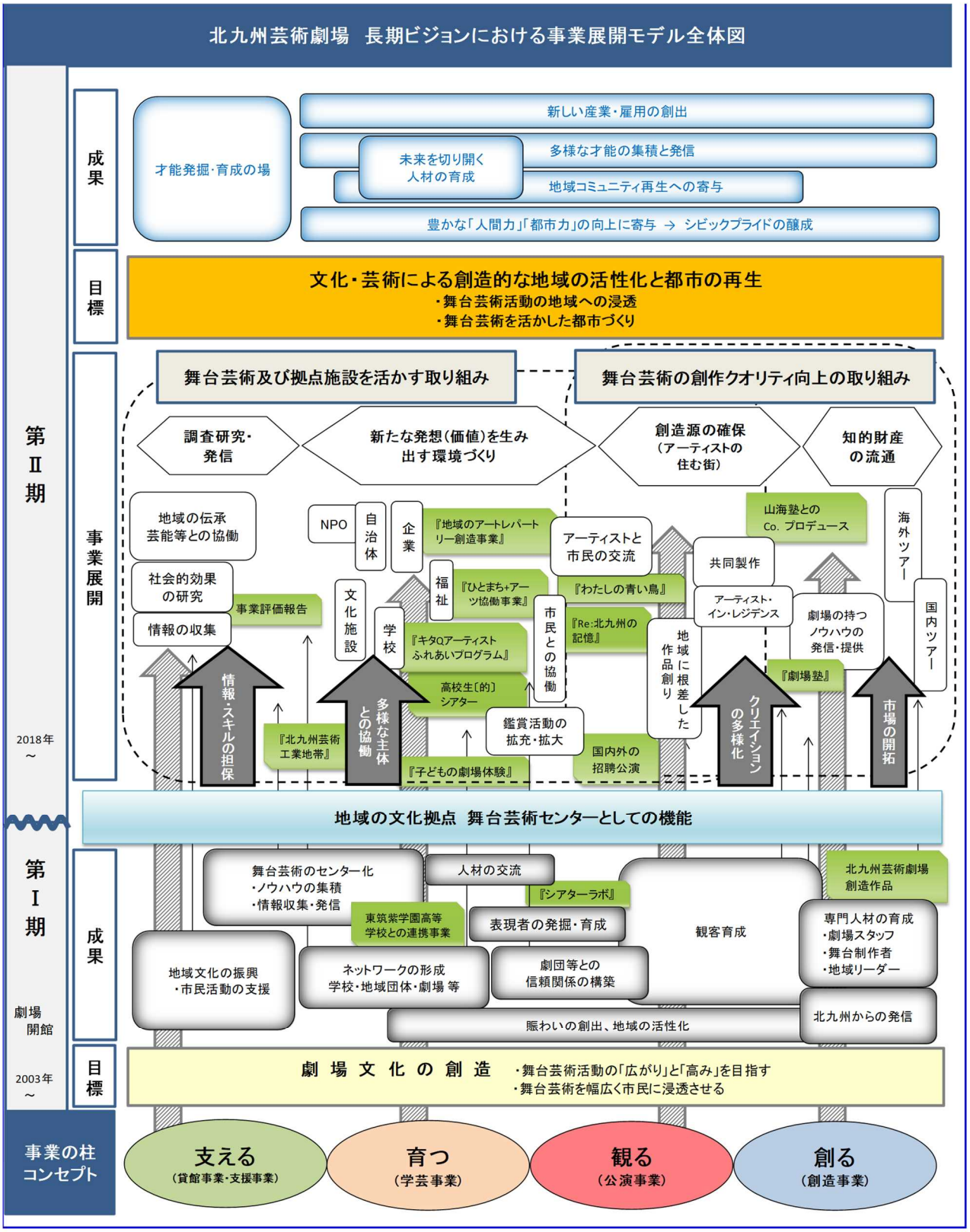
団体名	公益財団法人北九州市芸術文化振興財団
施設名	北九州芸術劇場
助成対象活動名	創造都市=クリエイティブ･シティ実現に向けた『北九州芸術劇場・長期ビジョンに基づく中期計画』
助成期間	５　（年間）
内定額	平成３０年度　38,052 平成３１年度　34,471 令和２年度　33,232 令和３年度　34,728 令和４年度　43,281 （千円）

１．事業概要

（１）事業計画の概要

全体図（概念図）

（事業名）創造都市=クリエイティブ・シティ実現に向けた『北九州芸術劇場・長期ビジョンに基づく中期計画』



（２）令和４年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程 主な実施会場	概　要 （演目、主な出演者、スタッフ等）	入場者・参加者数	
1	北九州芸術劇場クリエイション・シリーズ「新作」（1 年目）	4 月～11 月	作・演出：松井周（サンプル） 演出助手：山口大器（劇団言魂） 俳優：上瀧雅大	目標値	30
		小劇場ほか		実績値	69
2	大人も一緒に子どもたちの劇場シリーズ 2022－海外編－「Ode to Life～幸せなおじぃとおばぁ～」	7 月 31 日	出演：コンパーニア・ロディ―ジオ（from イタリア）	目標値	160
		小劇場		実績値	143
3	「導かれるように間違う」	7 月 31 日（中止）※	新型コロナウイルス感染症の影響で公演を中止した。	目標値	450
		中劇場		実績値	－※
4	マームとジプシー「cocoon」	8 月 14 日	演出：藤田貴大 音楽：原田郁子 出演：青柳いづみ、菊池明明、小泉まき　ほか	目標値	328
		中劇場		実績値	331
5	「気づかいルーシー」	8 月 28 日	原作：松尾スズキ　本・演出：ノゾエ征爾 出演：岸井ゆきの　栗原類 ・ 川上友里　山口航太　ほか	目標値	328
		中劇場		実績値	447
6	モノレール公演「きみをさがして」	9 月 2 日・3 日	作・演出：柴幸男　演奏：〔Cello〕岸本義輝、〔Keyboard〕上村貴子 出演：生水鹿、鈴木隆太　ほか	目標値	180
		北九州モノレール車内		実績値	136
7	「夜の女たち」	9 月 24 日・25 日	構成台本・演出：長塚圭史　出演：江口のりこ、前田敦子、伊原六花、北村有起哉、大東駿介　ほか	目標値	900
		中劇場		実績値	1,017
8	「スカパン」	10 月 23 日	潤色・演出・美術：串田和美　出演：串田和美、小日向文世、大森博史、小日向星一 ほか	目標値	450
		中劇場		実績値	268
9	マギー・マラン「MayB」	11 月 23 日	演出・振付：マギー・マラン 出演：Company Maguy Marin	目標値	393
		中劇場		実績値	364
10	「メアリー・ステュアート」	12 月 3 日・4 日 ※（取り下げ）	演目変更により、要望取り下げ	目標値	1,351
		中劇場		実績値	－※
11	北九州芸術劇場＋市民共同創作劇「君といつまでも～Re:北九州の記憶～」	4 月～3 月	構成・脚本・演出：内藤裕敬（南河内万歳一座）	目標値	960
		北九州芸術劇場 東京芸術劇場		実績値	902
12	山海塾「TOTEM　真空と高み」世界初演	3 月 18 日・19 日	演出・振付・デザイン：天児牛大 音楽：加古隆・吉川洋一郎 照明：岩村原太	目標値	900
		中劇場		実績値	623

13	子どもの劇場体験 2022～職場体験編	12 月 24 日～28 日	コーディネーター：有門正太郎、アシスタント：坂口あす実 講師：北九州芸術劇場スタッフ	目標値	150
		小劇場		実績値	90
14	高校生〔的〕シアター	6 月～1 月	講師：守田慎之介、門司智美、寺田剛史、脇内圭介、山口大器、北九州芸術劇場スタッフ	目標値	①304②10
		創造工房　ほか		実績値	①182②21
15	市民劇場文化サポーター育成事業	5 月～3 月	市民芸術文化サポーター	目標値	180
		北九州芸術劇場内		実績値	116
16	キタキューブ	9 月～10 月	講師：ノゾエ征爾（脚本家・演出家・俳優）、島地保武（ダンサー・振付家）	目標値	30
		創造工房　ほか		実績値	59
17	ひとまち＋アーツ協働事業	4 月～12 月 （一部中止）※	アーティスト：田村一行（舞踏家・振付家）、セレノグラフィカ、有門正太郎、守田慎之介	目標値	260
		北九州 YMCA 学院 他		実績値	110※
18	キタ Q アーティストふれあいプログラム	5 月～2 月	講師：太めパフォーマンス、有門正太郎、守田慎之介、セレノグラフィカ、松岡大	目標値	840
		市内小・特別支援校		実績値	736
19	地域のアートレパートリー創造事業	8 月～1 月	振付：中村蓉 音楽：MASSAN×BASHIRY	目標値	100
		小劇場　ほか		実績値	121
20	学芸事業調査分析→発信事業	5 月～2 月	学芸事業について調査分析及び発信	目標値	
		小劇場　ほか		実績値	

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

（３）令和３年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程 主な実施会場	概　要 （演目、主な出演者、スタッフ等）	入場者・参加者数	
1	イデビアン・クルー「義務」	4月9日 中劇場	振付・演出：井手茂太、音楽：原摩利彦、出演：斉藤美音子、依田朋子、宮下今日子、福島彩子　他	目標値 実績値	393 188
2	山海塾「かがみの隠喩の彼方ーかげみ」リ・クリエーション	5月16日 中劇場	演出・振付・デザイン：天児牛大 演出助手：蝉丸、舞踏手：竹内晶、市原昭仁、松岡大、石井則仁　他	目標値 実績値	393 281
3	セレノグラフィカ ダンス公演「無言歌～カラダとウタウ～」	6月26日・27日 小劇場	振付・演出：隅地茉歩（セレノグラフィカ）、出演：隅地茉歩、阿比留修一（セレノグラフィカ）	目標値 実績値	168 123
4	北九州芸術劇場プロデュース／市民参加企画　合唱物語「わたしの青い鳥2021」	5月14日～7月4日 中劇場ほか	指揮・合唱指導：樋本英一 ｿﾌﾟﾗﾉｿﾛ・合唱指導：伊藤晴 ﾋﾟｱﾉ：白石光隆　作曲：長生淳　台本演出ﾅﾚｰｼｮﾝ：能祖將夫	目標値 実績値	350 273
5	「かがみ まど とびら」	7月27日 小劇場	作・演出：藤田貴大、音楽：原田郁子、衣装：suzuki takayuki、出演：伊野香織、川崎ゆり子　他	目標値 実績値	140 145
6	「近松心中物語」	9月25日・26日 中劇場	作：秋元松代、演出：長塚圭史 出演者：田中哲司、松田龍平、笹本玲奈、石橋静河　他	目標値 実績値	1,179 1223
7	大人も一緒に 子どもたちの劇場シリーズ 2021ー海外編-	1月15日・16日（中止）※ 小劇場	新型コロナウイルス感染症の影響で公演を中止した。	目標値 実績値	140 -※
8	オハッド・ナハリン／バットシェバ舞踊団「HORA」	1月25日・26日（中止）※ 大ホール　他	新型コロナウイルス感染症の影響で公演を中止した。	目標値 実績値	503 -※
9	ウィリアム・フォーサイス「Three Quiet　Duets」	2月12日(中止)※ 大ホール	新型コロナウイルス感染症の影響で公演を中止した。	目標値 実績値	697 -※
10	北九州芸術劇場クリエイション・シリーズ「まつわる紐、ほどけば風」	1月27日～2月20日 小劇場	作・演出：岩崎正裕（劇団太陽族） 出演：内山ナオミ、江﨑萌葉、大野朱美、木下海聖、桜井玲奈　他	目標値 実績値	419 344
11	北九州芸術劇場+市民共同創作リーディング　「Re:北九州の記憶」	6月～3月7日 小劇場　他	構成・演出：内藤裕敬（南河内万歳一座）	目標値 実績値	231 307
12	子どもの劇場体験 2021～職場体験編～	8月10日～14日（中止）※ 小劇場　ほか	新型コロナウイルス感染症の影響でワークショップを中止した。	目標値 実績値	30 -※

13	高校生〔的〕シアター	6月26日～3月 (一部中止)※ 創造工房　ほか	講師：守田慎之介（演劇関係いすと校舎）※新型コロナウイルス感染症の影響で一部中止して実施	目標値	118
				実績値	12※
14	大学演劇ラボ2021	10月～3月13日 (一部中止)※ 創造工房	講師：泊篤志、守田慎之介 ※新型コロナウイルス感染症の影響で一部中止して実施	目標値	110
				実績値	12※
15	劇場塾2021― 舞台技術セミナー	3月18日 大ホール	作曲家・ピアニスト：野村誠、ダンサー・振付家：遠田誠、	目標値	50
				実績値	44
16	市民劇場文化サポーター育成事業	4月～3月 北九州芸術劇場内	市民芸術文化サポーター	目標値	26
				実績値	26
17	ダンスワークショップ～Dance Dive	9月17日～12月5日 小劇場　ほか	講師：松岡大（舞踏家）、中村蓉（ダンサー・振付家）	目標値	60
				実績値	35
18	キタQアーティストふれあいプログラム	6月30日～2月18日 (一部中止)※ 市内小・特別支援校	講師：有門正太郎、守田慎之介　他 ※新型コロナウイルス感染症の影響で一部中止して実施	目標値	1,000
				実績値	885
19	ひとまち＋アーツ協働事業	4月～1月 北九州YMCA学院　他	アーティスト：田村一行（舞踏家・振付家）、セレノグラフィカ、有門正太郎、守田慎之介	目標値	60
				実績値	25
20	創造事業調査分析→発信事業	6月～3月 北九州芸術劇場	学芸事業について調査分析及び発信	目標値	－
				実績値	

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

（４）令和２年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程 主な実施会場	概　要 （演目、主な出演者、スタッフ等）	入場者・参加者数	
1	大人も一緒に子どもたちの劇場シリーズ 2020-海外編-	令和２年３月23日 (中止)※ 小劇場	新型コロナウイルス感染症の影響で公演を中止した。	目標値 実績値	308 -※
2	北九州芸術劇場プロデュース／市民参加企画 合唱物語「わたしの青い鳥2020」	令和２年６月28日 小劇場(ZOOMにて配信)	[小劇場]合唱：上瀧征宏、門司智美ほか、ピアノ：岩佐靖子 [ZOOM参加]市民23名、伊藤晴、白石光隆、能祖將夫	目標値 実績値	350・80 -※
3	「二分間の冒険」	令和２年７月25日 ～26日(中止) ※ 小劇場	新型コロナウイルス感染症の影響で公演を中止した。	目標値 実績値	190・30 -※
4	マームとジプシー「cocoon」	令和２年８月９日 (中止)※ 中劇場	新型コロナウイルス感染症の影響で公演を中止した。	目標値 実績値	315 -※
5	モーツァルト 歌劇「フィガロの結婚」～庭師は見た！～	令和２年10月18日 大ホール	指揮/総監督：井上道義、演出：野田秀樹 ※新型コロナウイルス感染症の影響で海外キャストを国内キャストへ変更	目標値 実績値	761 539
6	「ヴォイツェク」	令和２年10月31日 ～11月１日(中止)※ 小劇場	新型コロナウイルス感染症の影響で公演を中止した。	目標値 実績値	182 -※
7	「ピーター＆ザ・スターキャッチャー」	令和３年１月24日 中劇場	脚本：リック・エリス（脚本家・ウォルトディズニースタジオアドバイザー） 演出：ノゾエ征爾（劇団はえぎわ主宰）	目標値 実績値	786 218※
8	北九州芸術劇場+市民共同創作リーディング「Re:北九州の記憶」	令和３年２月20日～21日※ 小劇場	構成・演出：内藤裕敬（南河内万歳一座） ※新型コロナウイルス感染症の影響で一部変更して実施	目標値 実績値	231 178
9	子どもと大人のためのダンス「日本昔ばなしのダンス」	令和３年１月16日 中劇場	構成・演出・振付：山口夏絵、近藤良平 出演：鎌倉道彦、藤田善宏、山本光二郎、近藤良平、稲村はる、宮内愛、山口夏絵	目標値 実績値	252 115
10	北九州芸術劇場こどもプロジェクト「あそびのじかん」	令和２年10月11日 ～12月６日※ 創造工房内稽古場	全体コーディネーター：守田慎之介 ※新型コロナウイルス感染症の影響で一部中止して実施	目標値 実績値	40 9※
11	高校生〔的〕シアター	令和２年12月５日 （一部中止）※ 創造工房内稽古場	講師：平原慎太郎、守田慎之介、門司智美、脇内圭介、山口大器　ほか	目標値 実績値	100 17・2※
12	劇場塾 2020～オープンレクチャー	令和２年12月26日 令和３年１月20日 小劇場	講師：木ノ下裕一（木ノ下歌舞伎主宰）・吉本有輝子（舞台照明デザイナー）	目標値 実績値	60 64
13	市民劇場文化サポーター育成事業	令和２年４月 ～令和３年３月 北九州芸術劇場内	市民芸術文化サポーター	目標値 実績値	30 26

番号	事業名	主な実施日程 主な実施会場	概　要 （演目、主な出演者、スタッフ等）	入場者・参加者数	
14	ダンスダイブ～ワークショップ編～	令和２年９月13日 令和２年12月５日	講師：平原慎太郎・入手杏奈	目標値	60
		創造工房内稽古場		実績値	34※
15	キタＱアーティストふれあいプログラム	令和２年９月28日 ～12月９日	講師：有門正太郎・セレノグラフィカ・中村蓉	目標値	1,000
		市内小・特別支援校		実績値	343※
16	ひとまち＋アーツ協働事業	令和２年６月 ～令和３年１月	アーティスト：有門正太郎・守田慎之介	目標値	150・60
		大ホールほか		実績値	86※
17	学芸事業調査分析→発信事業（仮）	令和２年４月 ～令和３年２月	学芸事業について調査分析及び発信	目標値	－
		北九州芸術劇場		実績値	－

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

（５）平成３１年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程 主な実施会場	概　要 （演目、主な出演者、スタッフ等）	入場者・参加者数	
1	北九州芸術劇場プロデュース／市民参加企画 合唱物語「わたしの青い鳥 2019」	5 月 10 日～6 月 23 日 中劇場ほか	指揮・合唱指導：樋本英一 ｿﾌﾟﾗﾉｿﾛ・合唱指導：伊藤晴 ﾋﾟｱﾉ：白石光隆　作曲：長生淳 台本演出ﾅﾚｰｼｮﾝ：能祖將夫	目標値 実績値	350・80 390・88
2	森山開次「ＮＩＮＪＡ」	7 月 13 日 中劇場	演出・振付・ｱｰﾄﾃﾞｨﾚｸｼｮﾝ： 森山開次	目標値 実績値	396 315
3	めにみえない みみにしたい	7 月 20 日～7 月 21 日 小劇場	作・演出：藤田貴大	目標値 実績値	270 231
4	大人も一緒に子どもたちの劇場シリーズ ―海外編―	7 月 20 日～21 日 創造工房	出演：ﾀﾞﾝｾﾏ･ﾀﾞﾝｽ･ｼｱﾀｰ	目標値 実績値	216 199
5	松尾スズキプロデュース 東京成人演劇部 vol.1 「命、ギガ長ス」	7 月 31 日～8 月 1 日 小劇場	作・演出：松尾スズキ 出演：安藤玉恵、松尾スズキ	目標値 実績値	351 405
6	ダンスダイブウィーク	9 月 15 日～9 月 22 日 北九州芸術劇場 ほか北九州市内各所	アーティスト：森山開次／北村成美　出演：イマ☆タカ＆イマ☆タカダンスファミリー、赤シャツダンサーズ	目標値 実績値	40・600 122・370
7	ギミックス	4 月～9 月 小劇場ほか	振付･演出: 井手茂太（イデビアン・クルー）	目標値 実績値	656・60 447・63
8	Ｒｅ：北九州の記憶	4 月～令和 2 年 2 月 小劇場ほか	構成・演出： 内藤裕敬（南河内万歳一座） ※新型コロナウィルス感染防止のため関連企画を一部縮小して実施	目標値 実績値	210 289
9	北九州芸術劇場クリエイション･シリーズ 「まつわる紐、ほどけば風」	8 月～令和 2 年 3 月 小劇場ほか	作・演出： 岩崎正裕（劇団太陽族） ※新型コロナウィルス感染防止のため一部中止	目標値 実績値	768 92･101 71
10	山海塾「ひびき（リクリエーション）」	令和 2 年 2 月 23 日 中劇場	演出・振付・デザイン：天児牛大 舞踏手：竹内晶、市原昭仁、松岡大、石井則仁、百木俊介、岩本大紀、髙瀬誠	目標値 実績値	393 375
11	夏休み！子どもの劇場体験 2019	8 月 14 日～8 月 18 日 小劇場、創造工房ほか	コーディネーター：守田慎之介 リーダー：穴迫信一、髙野桂子 ※台風の影響に伴い一部中止	目標値 実績値	30 30
12	劇場塾 2019	11 月 30 日～12 月 18 日 大ホール、創造工房	講師：有門正太郎、岩崎正裕、藤岡保／神前沙織、セレノグラフィカ、マニシア／岩切正一郎／尾本章、長津結一郎	目標値 実績値	144 114
13	大学演劇ラボ	9 月～令和 2 年 3 月 創造工房、ほか市内施設	講師:永山智行、池田美樹、福田修志、北九州芸術劇場ローカルディレクター、テクニカルスタッフ ※新型コロナウィルス感染防止のため内容を縮小して実施	目標値 実績値	80・20 －・22

番号	事業名	主な実施日程 主な実施会場	概　要 （演目、主な出演者、スタッフ等）	入場者・参加者数	
14	東筑紫学園高等学校演劇類型連携事業	12 月 17 日 東筑紫学園高等学校	講師：泊篤志（北九州芸術劇場ローカルディレクター・飛ぶ劇場代表）、北九州芸術劇場スタッフ	目標値 実績値	20 14
15	市民劇場文化サポーター育成事業	4 月～令和 2 年 3 月 北九州芸術劇場内	市民芸術文化サポーター	目標値 実績値	28 26
16	高校生〔的〕シアター	4 月～令和 2 年 3 月 創造工房ほか	講師：山崎清介／白神ももこ ※台風の影響に伴い一部中止	目標値 実績値	30 201・33
17	キタＱアーティスト ふれあいプログラム	11 月～令和 2 年 2 月 市内小・中・特別支援校	講師：有門正太郎／守田慎之介／北尾亘／セレノグラフィカ	目標値 実績値	1,000 515
18	ひとまち＋アーツ協働事業	9 月～令和 2 年 2 月 小劇場ほか	アーティスト:セレノグラフィカ／有門正太郎、守田慎之介	目標値 実績値	126 30・400 822
19	地域のアートレパートリー創造事業	4 月～令和 2 年 3 月 市内各所	「ギラダンス」 振付:近藤良平　音楽:吉田トオル ※新型コロナウィルス感染防止のため内容を縮小して実施	目標値 実績値	3,000 296
20	北九州芸術工業地帯	4 月～令和 2 年 3 月 北九州モノレール ほか市内各所	作・演出：柴幸雄 ※新型コロナウィルス感染防止のため中止	目標値 実績値	252・360 －

（６）平成３０年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程 主な実施会場	概　要 （演目、主な出演者、スタッフ等）	入場者・参加者数	
1	寿歌	平成30年5月26日～5月27日 小劇場	作：北村想、演出：宮城聰 出演：SPAC／奥野晃士、春日井一平、たきいみき	目標値 実績値	112 192
2	北九州芸術劇場ﾌﾟﾛﾃﾞｭｰｽ/市民参加企画 合唱物語「わたしの青い鳥2018」	平成30年5月11日～7月1日 中劇場ほか	指揮・合唱指導：樋本英一　ソプラノソロ：伊藤晴　ピアノ：白石光隆 作曲：長生淳　台本・演出・ナレーション：能祖將夫	目標値 実績値	500・100 411・82
3	フィリップ・ドゥクフレ/ＤＣＡ「新作短編集(2017)」	平成30年7月5日～7月8日 中劇場	演出・振付：フィリップ・ドゥクフレ出演：カンパニーDCA	目標値 実績値	958 545
4	大人も一緒に子どもたちの劇場シリーズ2018 ―海外編―	平成30年7月20日～7月22日 小劇場	出演：キャサリン・ウィールズ劇団（スコットランド）	目標値 実績値	270 267
5	マシーン・ドゥ・シルク	平成30年8月2日 中劇場	演出：ヴィンセント・デュベ音楽：フレデリック・ルブラサール出演：ヨハン・フラデット-トレパニエ他	目標値 実績値	508 593
6	ダンスダイブウィーク	平成30年9月9日～9月23日 小劇場、市内各所	出演：森下真樹　振付：MIKIKO、森山未來、石川直樹、笠井叡 ワークショップ講師：康本雅子、井手茂太　他	目標値 実績値	1,500 237・87
7	Re:北九州の記憶	平成30年4月～平成31年3月 小劇場	構成・演出：内藤裕敬（南河内万歳一座）	目標値 実績値	192 337
8	北九州芸術劇場プロデュース／九州男児劇「せなに泣く」	平成30年4月7日～12月2日 小劇場	作・演出：田上豊	目標値 実績値	480 559
9	山海塾「Arc 薄明・薄暮」世界初演	平成31年3月23日～3月24日 中劇場	振付・デザイン・演出：天児牛大 舞踏手：蝉丸、竹内晶、市原昭仁、松岡大、石井則仁、百木俊介、岩本大紀、高瀬誠	目標値 実績値	1,060 781
10	Stopgap Dance Company「The Enormous Room」	平成31年3月14日～3月16日 小劇場	振付：ルーシー・ベネット 出演：デーヴィッド・トゥール、ハンナ・サンプソン、メリッツェル・チェカ　他	目標値 実績値	91 109・26
11	夏休み！子どもの劇場体験2018	平成30年7月30日～8月2日 小劇場ほか	コーディネーター：守田慎之介 リーダー：穴迫信一、髙野桂子 アシスタント：高野由紀子	目標値 実績値	30 30
12	劇場塾2018	平成30年10月13日～12月21日 創造工房ほか	講師：カミイケタクヤ、守田慎之介、大月ヒロ子、多田淳之介、高橋岳蔵（劇団☆新感線）	目標値 実績値	90 133
13	シアターラボ	平成30年7月～平成31年3月 創造工房ほか	戯曲講座講師・演出アドバイザー：泊篤志（飛ぶ劇場）アシスタント：守田慎之介（演劇関係いすと校舎）	目標値 実績値	150・35 171・43
14	東筑紫学園高等学校演劇類型連携事業	平成30年12月～1月 東筑紫高等学校	講師：岩﨑正裕（劇団太陽族）、加賀田浩二（北九州芸術劇場）	目標値 実績値	20 51

番号	事業名	主な実施日程 主な実施会場	概　要 （演目、主な出演者、スタッフ等）	入場者・参加者数	
15	高校生〔的〕シアター	平成30年4月～平成31年3月 中劇場、小劇場	講師：柴田隆弘（舞台美術ワークショップ）、多田淳之介（演劇ワークショップ）	目標値	110
				実績値	118
16	キタＱアーティストふれあいプログラム	平成30年9月～11月 市内小中特別支援校	講師：北尾亘、セレノグラフィカ、有門正太郎、守田慎之介	目標値	1,000
				実績値	705
17	ひとまち＋アーツ協働事業	平成30年4月～平成31年2月 市内福祉施設ほか	講師：セレノグラフィカ、北村茂美、有門正太郎、守田慎之介	目標値	350
				実績値	343
18	地域のアートレパートリー創造事業	平成30年4月～11月 市内商業施設ほか	「リバダン」振付：近藤良平　音楽：吉田トオル 「そらダン」振付：康本雅子　音楽：オオルタイチ	目標値	3,000
				実績値	241
19	北九州芸術工業地帯	平成30年9月～3月 市内各所	「うろきんさ」振付：康本雅子　構成：戌井昭人 「モノレール公演」作・演出：穴迫信一（ブルーエゴナク）	目標値	360・300
				実績値	474

２．自己評価

（１）妥当性（平成３０年～令和４年度　５か年分）

自己評価

事業計画に必要な構成要素が有機的に連関し、当初の予定通りに事業が実施できたか。

当劇場では、北九州市が示す方向性を踏まえた以下のミッションとビジョンのもと、演劇やダンスを中心とした事業を展開している。

北九州市策定の「まちづくり基本構想」および「北九州市文化振興計画」を踏まえた**北九州芸術劇場のミッションとビジョン**

ミッション
- 賑わいの拠点
  内外の人が集い、繋がる
- 地域文化の拠点
  地域に根差した取り組みを行う
- 文化創造の拠点
  新たな価値・人材を生み出す

ビジョン
- 暮らしを彩る多彩な舞台芸術を提供する　ー「観る」
- 舞台芸術を核に地域の人々と交流し、ともに育つ　ー「育つ（交流・育成）」
- レベルの高い作品創作と発信をする　ー「創る（創造・発信）」
- 地域の創造力を高めるための支援をする　ー「支える（創造支援）」

今回の策定した事業計画『北九州芸術劇場・長期ビジョンに基づく中期計画』の目標とその目標達成のために実施する事業は以下のとおりである。

事業計画　『北九州芸術劇場・長期ビジョンに基づく中期計画』

【目標】文化芸術による創造的な地域の活性化と都市の再生

Ⅰ．舞台芸術活動の地域への浸透

◆1　賑わいの拠点として国内外の作品の受け皿や九州圏域での鑑賞の拠点施設として多彩な作品を積極的に招致することで経済効果を高める。また、舞台芸術の多様性を喚起し、新しい出会いとコミュニケーションを創出する。

◆2　地域や社会課題に貢献していくと共に劇場・舞台芸術への理解を広げ、地域への浸透を図る。新しい観客、劇場ファン層の増加に繋げる。

◆3　人材育成の拠点として表現者やスタッフなどを育成し実演芸術の水準向上を目指す。地域で活動する人材を増やす。

Ⅱ．舞台芸術を活かした都市づくり

◆1　芸術文化の創造発信の拠点として、また中四国・九州圏域の拠点施設として作品を創造し国内外で公演を実施することで舞台芸術の振興と発展を発信する。

◆2　多様な主体との連携協働を進め、舞台芸術が持つ力を市民に広く還元し、新しい地域コミュニティの創造・再生を図る。

◆3　多様なジャンル、幅広い年齢層に向けた作品を招聘・創造することで北九州市域外からも集客し交流人口を増やす。国内外への発信により地域のアピールとブランドアップに寄与する。

カテゴリー①　公演事業　／　カテゴリー②　人材養成事業　／　カテゴリー③　普及啓発事業

平成 31 年度末から続くコロナ禍での事業実施は、中止や延期、収容人数制限などによる規模縮小の影響を大きく受けたが、そういった状況下でも感染対策の徹底をはじめ連携協働先との実施方法の調整・検討など最大限の対応を行い、全体的に概ね予定通りに進めることができた。

◎平成 30 年度～令和 4 年度までの 5 か年の助成対象事業数

	平成 30 年度		平成 31（令和元）年度		令和 2 年度		令和 3 年度		令和 4 年度	
公演事業	9 事業	－	9 事業	*2 事業	9 事業	*6 事業	11 事業	*3 事業	12 事業	*2 事業
人材普及事業	5 事業	－	6 事業	*1 事業	3 事業	*1 事業	5 事業	*3 事業	3 事業	－
普及啓発事業	5 事業	－	5 事業	*2 事業	5 事業	*4 事業	4 事業	*1 事業	5 事業	*1 事業

＊= 新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けた事業の数（中止・一部中止または規模縮小）

ここからは、5 か年分の活動の実施状況を達成目標と照らし合わせて、カテゴリーごとに総括する。

カテゴリー①公演事業／演劇、ダンスを中心とした舞台芸術作品を国内外問わず招聘し上演

［事業の達成目標］　＊賑わいの拠点／経済効果を高める／多様性の喚起と新しい出会い、コミュニケーションを演出する〈目標Ⅰの◆1〉
＊北九州市域外からも集客し交流人口を増やす／地域のアピールとブランドアップに寄与する〈目標Ⅱの◆3〉

●幅広い年齢層をターゲットに多様なジャンルの作品を上演

→子ども向けから若年～中年～高年層をターゲットに演劇だけでなくダンスや舞踏、オペラなど多彩なジャンルの作品の鑑賞機会を提供した。令和 2 年度を除き達成率は 80%を超え、地域における賑わい拠点としての役割を果たしていると考える。新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けた令和 2 年度は 51%にとどまったが、そういった状況下でも試行錯誤しながら様々な対策を講じ、実施できた事業の中には 70%

を超えたものもある。こういった影響も踏まえると、当初計画からは全体的に少し縮小した形での実施となったが、多彩なラインアップで舞台芸術の多様性を示すことができた。

●ダンス作品を中心とした海外作品の招聘・上演

→中規模の作品を中四国・九州圏域では当劇場のみで上演したことで、世界への窓としての機能を果たし、新しい表現との出会いを市内外に向けて広く創出した。ただし、令和 2～3 年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で出入国に関して厳しい状況が続いたため中止となった。令和 4 年度は実施できたものの、5 か年の計画においては縮小した規模での実施となり、その機会をさらに創出することができなかったが、社会の分断が進む状況の中で、子どもたちや幅広い層に向けて身近な場所で異文化や多様な価値観に触れる機会を設けることができた。

カテゴリー①公演事業／第一線で活躍するアーティストや地域住民とともに地域に根差したオリジナル作品を創作し発表・上演

［事業の達成目標］＊劇場・舞台芸術への理解を広げ地域への浸透を図る／新しい観客・劇場ファン層の増加〈目標Ⅰの◆2〉
＊中四国・九州圏域の拠点施設として作品を創造し国内外で上演／舞台芸術の振興と発展を発信〈目標Ⅱの◆1〉

●継続的に地域住民との作品創作を実施

→小学 3 年生以上の地域住民を対象に市民参加による作品創作（令和 2 年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止）を毎年度継続して実施することで劇場や舞台芸術への理解を地域に浸透させることができた。上演時には参加者の家族や友人などこれをきっかけに劇場にはじめて足を運ぶ来場者も多く見られ、こういった取組を通して新しい観客を創出した。また、幅広い世代が一緒に作品発表に向かい練習を重ねる過程を通して、世代間交流の促進の場としての機能も果たせたことは地域にある文化拠点としての使命の一端を担うことができたと考える。
さらに、まちに暮らす高齢者の記憶を舞台化する事業では、事業から派生した関連企画として朗読公演や戯曲講座を市内の市民センターや図書館などで実施することで、劇場内だけの活動では届きづらい層にアプローチすることができ、実際に演劇公演に足を運ぶようになったなどの声も聞かれ、舞台芸術への理解や新しい観客層の開拓を着実に積み重ねることができた。

●劇場オリジナル作品や共同製作による作品を創作し上演

→第一線で活躍するアーティストや地域の表現者との作品創作に継続して取り組み、北九州以外で公演を実施。令和元年度には宮崎・熊本公演、令和 4 年度には東京での公演を実施し、舞台芸術の振興と発展を「上演」という形で発信した。ただし、令和 2 年度の兵庫県伊丹市での公演が新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となったため、計画よりも縮小した形での取り組みとなった（令和 3 年度延期公演ではライブ配信を実施）。
また、地域の生活文化として根付いている都市モノレールで演劇作品を創作し、街なかで非日常を体験できる機会を提供できたことは、舞台芸術への関心を喚起するとともに、その振興と発展を発信した。
これらの活動において地域で活動する人材を中心とした出演者やスタッフと共に創ることで、地域の創造源を確保し地域の文化拠点としての役割を果たした。
さらに、世界的に活躍する舞踏カンパニー・山海塾との共同製作を 2 作品創作。世界初演として発表し、その後国内外での上演を重ねている。舞踏という日本が世界に誇る文化芸術を継承し、その創作活動を共に支えていくことで我が国の舞台芸術の国際プレゼンスの向上にも寄与した。

カテゴリー②人材養成事業／地域の未来を担う子どもたちや地域表現者スタッフなど舞台芸術に関わる人材、芸術文化を担う人材の育成を行う

［事業の達成目標］　＊劇場・舞台芸術への理解を広げ地域への浸透を図る／新しい観客・劇場ファン層の増加〈目標Ⅰの◆2〉
＊人材育成の拠点として実演芸術の水準向上を目指す／地域で活動する人材の増加〈目標Ⅰの◆3〉

●教育機関や幅広い年齢層の地域住民と共に舞台芸術に関する様々な取組を実施

→地域で唯一芸術コースを持つ高校や福岡県高等学校芸術・文化連盟北九州支部演劇部門との連携事業や小学生から 18 歳以上の幅広い年齢層の地域住民を対象にしたワークショップ、講座を実施し、舞台芸術や劇場への理解を広げた。高校生向けの事業では事業以外にも学校鑑賞や高校生対象チケットを活用して観劇におとずれるなど、次世代を担う世代が着実に劇場への愛着や舞台芸術に対しての理解を深めている。また、地域住民らによるサポート活動ではメンバーの約 63%が 2 年間の活動終了後も劇場文化を支える OB・OG での活動を希望し継続していることからも、より長く深く劇場との関係性を持つ層が着実に増えている。

●各世代や地域の芸術分野関係者などに向けて舞台芸術の力を使った様々な取組を実施

→地域における人材育成の拠点として、世代ごと（小学生・高校生・大学生・社会人向け）や、地域の表現者を含む舞台芸術分野に携わる人材向けに演劇づくりの場の提供や実践的なレクチャーを実施。このような事業を継続または定期的に実施したことで、さらに育成していくだけでなく、新しい人材の発掘にも力を入れることができた。特に、期間限定劇団を作り演劇創作を学ぶ事業では、そこでの活動を通して劇作家や俳優として活動を継続する人材が出てくるなど、着実に地域で活動する新しい表現者を輩出していることからも、5 か年の事業実施が地域で舞台芸術活動を行う人材の輩出・育成につながっており、計画に沿って実施できたと考える。

カテゴリー③普及啓発事業／地域の文化拠点として、舞台芸術の力を育み活用し、地域課題の解決に向けた取組や地域において新しい発想を生み出す環境づくりを行う

［事業の達成目標］　＊劇場・舞台芸術への理解を広げ地域への浸透を図る／新しい観客・劇場ファン層の増加〈目標Ⅰの◆2〉
＊多様な主体との連携協働を進め、市民に広く還元し新しい地域コミュニティを創造・再生〈目標Ⅱの◆2〉

●劇場内外で舞台芸術の力を活用した参加型・創造型事業などを様々な年齢層対象に実施

→市内小中学校へのアウトリーチやまちなかでのパフォーマンス、地域資源を活用した作品創作などを実施。対象も広く一般としたものから子どもや親子、大学生、シニア、表現者向けなどターゲットを絞り、地域にあるニーズも意識してプログラムの内容をブラッシュアップして丁寧に実施することで、劇場や舞台芸術への理解を広げるとともに劇場ファン層の増加にも寄与した。また、継続して実施している学校アウトリーチ事業では、特別支援学校・学級の先生らのリピート率や口コミによる広がりが見られ、舞台芸術の力やそれに対する理解が着実に浸透している。特に、令和2年度以降新型コロナウイルス感染拡大の影響で著しく減少した体験機会を、徹底した感染対策を講じながら実体験として提供できたことは、地域の芸術文化における拠点施設としての機能を最大限活かすことができたと考える。

●地域にある企業や他分野の団体と連携し舞台芸術創造活動を実施

→地域にある様々な主体と連携協働し、就労支援が必要な若者や障がい者、外国人留学生、商業施設や地元プロサッカーチームなどと芸術体験プログラムや作品創作・発表の実施を通して、多様な人々が舞台芸術に触れ交流する機会や互いの価値観を知り合う場を創出。連携協働先・アーティスト・劇場の3者が活動における中期ビジョンを共有しながら着実に活動を継続していくことで、連携協働先が主体となってアーティストとともに活動を続ける動きが出てくるなど、新しい地域コミュニティの創造につなげることができた。
ただし、令和3年度と4年度に実施予定だった児童養護施設との連携協働事業では、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、実施の可能性を探ったものの施設側との調整がつかずプログラムを実施できなかったため、当初の計画を達成することができなかった。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

●文化的意義

・世界 40 か国以上で活躍する舞踏カンパニー・山海塾との共同製作や作品上演をほぼ毎年度実施。世界で活躍するカンパニーとの共同製作は国内外への発信において大きな意味を持つとともに、その創作活動を支援していくことで我が国の芸術文化の質の担保と向上に大きく貢献している。
・世界的振付家のフィリップ・ドゥクフレや障がいの有無を超えた身体表現を行う Stopgap Dance Company、40 年以上世界で上演を重ねる傑作マギー・マラン「MayB」など芸術性の高い作品を他館と連携し国内招聘を実現するなど、中四国・九州圏域の拠点施設としての役割を果たしている。世界水準の作品の享受機会を積極的且つ継続的に提供することで、先鋭的な作品に関心を寄せる層の創客につながり地域の文化度向上に寄与した。
・国内の第一線で活躍するアーティストを招き創作した『ギミックス』『まつわる紐、ほどけば風』は、全国から出演者を募り質の高い作品を創造発信した。前者は宮崎・熊本2か所で初の九州内ツアーを実施、後者は新型コロナウイルス感染拡大の影響で関西公演は中止となったがライブ配信を行い、作品性を広く発信した。

●社会的意義

・地域課題の解決を目的とする「ひとまち＋アーツ協働事業」では、様々な領域の団体と協働し舞台芸術の力を地域に還元している。引きこもりや不登校などの悩みを抱える若者を対象に実施した芸術体験プログラムでは、演劇創作の過程を通してコミュニケーション力や表現力、仲間と共に協力し生み出す喜びを提供し、復学や就労に踏み出す若者も多く参加者の新たな一歩につながっている。
・障がいの有無にかかわらず様々な方が参加したダンスプロジェクト“レインボードロップス”は、作品クオリティも担保しつつ、各々の個性を認め合い唯一無二の存在であることを作品に込める豊かな創作プロセスを実現。平成 31 年度以降、協働先が主体となり地域のアーティストと共に商業施設や芸術祭でのパフォーマンスを継続しており、劇場発の事業が地域社会へ根付いた事象として事例紹介依頼（おおいた障がい者芸術文化支援センター、東京芸術劇場主催社会共生オンラインセミナーなど）も絶えず全国から注目を集めている。
・高齢者の記憶を聞き取り作品創作につなげる「Re：北九州の記憶」では、孤立化が進む高齢者と若手劇作家が直接出会い交流を深め、地域の歴史や記憶を掘り起こし演劇的に発信する試みを続けている。事業に参加した高齢者が若者に刺激を受け演劇作品を創作したり、出来上がった戯曲を活用し市内施設と連携して“記憶”を継承する取組では参加者の定着が見られるなど、新たなコミュニティ創りに寄与し持続的な展開につながった。令和 4 年度は過去 10 年間で積み上げた作品を元に新作を上演。初の東京ツアーを実施し、作品の上演とともに地域のオリジナル作品として記憶を演劇化する手法も含め首都圏で発信した。他館より事例紹介依頼を受けるなど関心を寄せられるとともに、同様の取組が他地域でも展開されるなど広がりをみせている。
・いずれの事業も複数年を掛けて取り組み、劇場が地域社会との関係性を強化することで新たなつながりも生みながら地域への貢献度を高め、劇場の存在意義を示すことができた。

●経済的意義

・賑わいの拠点として多彩な作品を招致し、他県からの来場者確保・交流人口増加につながっている。また集客やカンパニー招致により市内ホテルや地元航空会社等の利用も促進し、地域経済の活性に寄与した。
・市民を巻き込んだ参加型事業「ダンスダイブウィーク」の“夕暮れダンス”では、商店街の飲食店にてパフォーマンスを実施。市民ダンサーが踊り盛り上げることで注目を集め、集客力アップや商店街の活性につながるとともに、踊り手自身も新たな価値観と出会い生きがいを創出した。“住む魅力”を向上させたことで、企画の来場者が本市へのＪターンにつながった事例も生まれている。
・「地域のアートレパートリー創造事業」では、地元プロサッカーチームや商業施設と連携しオリジナルダンスを制作・発表。街のイメージアップや双方の新たな顧客創出に寄与した。また、市民の日常の足である都市モノレールと連携した演劇公演では、街なかで「非日常」を体験できる機会を創出。本市固有の観光・文化資源を舞台に地域色豊かな作品を創作すると同時に、交通機関での公演を通し市民生活に彩りを与えた。
・これらを含む人材養成・普及啓発事業では、地域の表現者がアウトリーチ等の講師として活躍。表現者の創造性を活かしたプログラムを劇場とともに研磨することで、プログラムの質を高めリピート率も着実に上がっている。表現者が地域で活躍する新たな産業となり、地域住民の芸術文化の享受機会の拡大にもつながった。

（２）有効性（平成３０年～令和４年度　５か年分）

自己評価

目標を達成し、アウトカムが発現したか。

★目標Ⅰ．舞台芸術活動の地域への浸透

【指標◇-1 九州圏域における舞台芸術の多様性の喚起】

●演劇・ダンスのジャンルで「公演事業」「人材育成」「普及啓発」の要素を含むプログラムを構成し、舞台芸術の多様性を提示する。⇒達成状況：構成比/演劇：ダンス＝7：3 をおおむね保持　達成

ジャンル	プログラム主旨・目標	H29年度(基準)		H30年度(1年目)		H31年度(2年目)		R2年度(3年目) 上段：実績 下段：計画		R3年度(4年目) 上段：実績 下段：計画		R4年度(5年目) 上段：実績 下段：計画		指標	
		構成比		構成比		構成比		構成比		構成比		構成比		構成比	
演劇	公演	35%	73%	22%	61%	21%	58%	20% (40%)	67% (75%)	25% (25%)	60% (58%)	34% (40%)	67% (70%)	32%	70%
	人材養成	19%		17%		21%		20% (15%)		20% (21%)		14% (13%)		19%	
	普及啓発	19%		22%		16%		27% (20%)		15% (12%)		19% (17%)		19%	
ダンス	公演	8%	27%	17%	39%	17%	42%	7% (5%)	33% (25%)	15% (21%)	40% (42%)	14% (13%)	33% (30%)	10%	30%
	人材養成	4%		5%		8%		13% (10%)		10% (8%)		5% (4%)		5%	
	普及啓発	15%		17%		17%		13% (10%)		15% (13%)		14% (13%)		15%	

●公演事業を全体の 4 割程度維持

⇒達成状況：H30 年度 39%、H31 年度 38%、R2 年度 27%、R3 年度 40%、R4 年度 48%　4/5 達成

【指標◇-2 地域課題への取り組み】

●地域の課題を複合的に捉え、舞台芸術の持つ創造力を活かして活動の広がりを生むため、「普及啓発事業」のうち地域課題要素を含む事業の割合を各項目ごとに堅持。

①　高齢者の生きがい　40%

⇒達成状況：H30 年度 40%、H31 年度 50%、R2 年度 20%、R3 年度 25%、R4 年度 40%　3/5 達成

②　地域住民と来日外国人の共生　30%

⇒達成状況：H30 年度 0%、H31 年度 0%、R2 年度 0%、R3 年度 25%、R4 年度 20%　0/5 達成

③　障がい者の芸術活動　30%

⇒達成状況：H30 年度 40%、H31 年度 50%、R2 年度 20%、R3 年度 25%、R4 年度 20%　2/5 達成

④　子どもたちへアートの力を届ける　60%

⇒達成状況：H30 年度 80%、H31 年度 100%、R2 年度 60%、R3 年度 50%、R4 年度 20%　3/5 達成

⑤　若者世代の活性化（就労支援等）　20%

⇒達成状況：H30 年度 20%、H31 年度 50%、R2 年度 20%、R3 年度 50%、R4 年度 20%　5/5 達成

【指標◇-3 劇場ファン層の増加】

●継続的な劇場ファン層増加のため、劇場での鑑賞経験〈初～2 回〉の来場者層を 40%→42%へ引き上げる。

⇒達成状況：H30 年度 38%、H31 年度 34%、R2 年度 31%、R3 年度 32%、R4 年度 33%　0/5 達成

【指標◇-4 事業に関わる地域の表現者、スタッフの育成】

●地域の表現者とスタッフの育成のため、次世代を担う若者世代〈10 代～30 代〉の割合を 73%→75%へ引き上げる。

⇒達成状況：H30 年度 61%、H31 年度 69%、R2 年度 64%、R3 年度 63%、R4 年度 52%　0/5 達成

★目標Ⅱ．舞台芸術を活かした都市づくり

【指標◇-1 長期継続事業における舞台芸術作品の創造・発信】

●舞台芸術作品創作の枠組として「市民参加型」「地域資源発掘・活性型」などの創造事業を年間 2 事業実施することを指標として設定。

⇒達成状況：H30 年度 3 事業、H31 年度 3 事業、R2 年度 2 事業、R3 年度 3 事業、R4 年度 2 事業　5/5 達成

【指標◇-2 地域にある多様な主体との連携・協働】

●地域にある多様な主体・芸術文化以外の 4 分野との連携・協働を指標として設定。

⇒達成状況：H30 年度 6 分野、H31 年度 5 分野、R2 年度 4 分野、R3 年度 4 分野、R4 年度 5 分野　5/5 達成

【指標◇-3 幅広い年齢層に向けたアプローチ】

●幅広い年齢層にアプローチし、事業参加の世代間格差を緩やかにする指標を設定。

⇒達成状況：小学生以下 2/5 達成・高校生以下 1/5 達成・若者世代 4/5 達成・現役世代 4/5 達成・シニア世代 2/5 達成　未達成

対象世代	H29年度(基準)	H30年度(1年目)	H31年度(2年目)	R2年度(3年目) 上段：実績 下段：計画	R3年度(4年目) 上段：実績 下段：計画	R4年度(5年目) 上段：実績 下段：計画	指標
小学生以下	20%	49% ※未就学児対象20%	33% ※未就学児対象8%	27% ※未就学児対象6% (48% ※15%)	15% ※未就学児対象6% (24% ※9%)	22% ※未就学児対象8% (24% ※8%)	30%
高校生以下	60%	83%	62%	52% (73%)	59% (65%)	65% (70%)	70%
18～35歳 (若者世代)	64%	77%	85%	58% (85%)	79% (85%)	92% (97%)	65%
35歳～50代 (現役世代)	64%	74%	74%	52% (70%)	71% (76%)	78% (84%)	65%
60代以上 (シニア世代)	60%	66%	62%	42% (58%)	38% (38%)	41% (41%)	60%

【指標◇-4 国内外へ向けた情報発信による支持者の拡大】

●多様なメディアを活用し、地域はもとより広く国内外へ情報を発信し支持者を拡大していくための指標を設定　未達成

WEBを活用した 情報発信	H29年度(基準)	H30年度(1年目)	H31年度(2年目)	R2年度(3年目)	R3年度(4年目)	R4年度(5年目)	指標
ホームページ 年間閲覧回数	1,169,697回	1,208,504回	1,560,639回	676,702回	931,378回	1,035,429回	1,500,000回
Twitter フォロワー数	5,852人	6,252人	6,685人	7,105人	7,525人	8,020人	9,000人
YouTube チャンネル登録者数	100人	166人	277人	568人	757人	890人	1,000人
ＬＩＮＥお友達数 (H31年度開始)	-	-	860人	1,214人	1,402人	1,707人	2,000人

★目標Ⅰ．舞台芸術活動の地域への浸透

指標◇-1⇒アウトカム【知的財産の流通】の発現はおおむね達成できた。

指標◇-2⇒アウトカム【新たな発想(価値)を生み出す環境づくり】が発現するレベルには達しなかった。

指標◇-3⇒アウトカム【知的財産の流通】の発現は認められなかった。

指標◇-4⇒アウトカム【新たな発想(価値)を生み出す環境づくり】の発現は認められなかった。

★目標Ⅱ．舞台芸術を活かした都市づくり

指標◇-1⇒アウトカム【創造源の確保（アーティストの住む街）】の発現につなげることができた。

指標◇-2⇒アウトカム【新たな発想（価値）を生み出す環境づくり】の発現につなげることができた。

指標◇-3⇒アウトカム【新たな発想（価値）を生み出す環境づくり】の発現は認められなかった。

指標◇-4⇒アウトカム【調査研究・発信】事業計画と指標の設定が連結していないため、発現は認められない。

有効性（平成30年～令和４年度）のロジックモデル

ミッション

- 【賑わいの拠点】内外の人が集い、繋がる
- 【文化創造の拠点】新たな価値・人材を生み出す
- 【地域文化の拠点】地域に根差した取り組みを行う

ビジョン

- 【観る】暮らしを彩る多彩な舞台芸術を提供する
- 【創る（創造・発信）】レベルの高い作品創作と発信をする
- 【育つ（交流・育成）】舞台芸術を核に地域の人々と交流し、ともに育つ
- 【支える（創造支援）】地域の創造力を高めるための支援をする

▼ インプット【チケット収入】【地域のスタッフ】【地域の表現者】【助成金】【自主財源】 ▼

アクション＋アウトプット

公演

国内外の招聘公演
演劇・ダンス・オペラなど国内外の多彩なラインナップを計40本招聘・上演。ダンス作品を中心に、中四国・九州圏域では当劇場のみで上演した演目もあり、新しい表現との出会いを市内外へ創出した。

「まつわる紐、ほどけば風」

人材養成

普及啓発

山海塾との共同製作
世界で高い評価を受けている山海塾との共同製作。平成18年以降は新作の日本初演を北九州で迎え、平成27年からは新作公演の世界初演を上演。北九州から世界へ発信している。

「Re：北九州の記憶」
市内に暮らす高齢者の記憶を、地元の若手劇作家が戯曲にして残していく事業。4年間で37本の戯曲が生まれた。出演者にも地元の人材を起用し、戯曲講座から作品創作まで、長期プロセスの中で作品性の向上や表現者の育成に取り組んでいる。

「せなに泣く」

「わたしの青い鳥」
約1か月半のワークショップで市民とプロのアーティストが合唱舞台を創作。4年間で224名の市民が参加した。アーティストとの本格的な作品創作の中で参加者同士がつながり支え合いながら質の高い作品が生まれた。

「ギミックス」
井手茂太を振付・演出に迎え、平成29年より3か年で人材発掘やワークショップを行った長期継続事業。平成31年度に劇場初となるダンス作品を創作。宮崎・熊本への九州ツアーも実施し、九州発のコンテンポラリーダンスを広く発信した。

劇場塾

東筑紫学園高等学校演劇類型連携事業

高校生〔的〕シアター
多感な時期の若者に多用な価値観に触れる機会を提供するため、福岡県高等学校芸術・文化連盟（演劇部門北九州支部）との協働による戯曲・演劇創作講座、高校生限定のワークショップ、割引鑑賞チケットの販売などを実施した。

シアターラボ／大学演劇ラボ
短期期間限定の劇団を結成し、演劇創作の体験機会を提供。開館以来広く一般対象に行っていたが、平成31（令和元）年からは次世代の人材がさらに飛躍する場の提供として「大学演劇」の活性を目指し実施。大学に演劇サークルがないことやコロナ禍で活動を制限された大学生に演劇活動と交流の場を提供した。

市民劇場文化サポーター育成事業

子どもの劇場体験

北九州芸術工業地帯
地域に残る歴史的建造物内でのパフォーマンスや、市民の生活の足であるモノレールでの演劇公演を創作。劇場に足を運ぶ機会の少ない人々にも舞台芸術の鑑賞機会を創出するとともに、地域資源を活かした革新的な作品を生み出しまちの新たな魅力発見につなげた。

あそびのじかん

キタQアーティスト ふれあいプログラム

地域のアートレパートリー創造事業
地元プロサッカーチーム・ギラヴァンツ北九州との協働でオリジナルダンス「ギラダンス」を創作。あわせてYouTubeにて、プロモーションビデオや振付レクチャー動画も公開した。学校アウトリーチのダンスプログラムとして活用するなど、浸透にも努めている。

学芸事業調査研究→発信事業

ダンスダイブ ウィーク／ワークショップ

ひとまち＋アーツ協働事業
北九州市身体障害者福祉協会との連携事業（以下アウトカム①）では、障がい者と健常者が相互理解を深めながらダンス作品の創作～上演に取り組み、参加者・スタッフ・観客に新たな価値観への気づきを促した。また北九州市子ども・若者応援センターYELLとの連携事業（同②）では、引きこもりや不登校など様々な悩みを抱える若者たちへ芸術体験プログラムを継続実施。

アウトカム

直接

令和元年初演の「Arc-薄明・薄暮」は令和2年1月にびわ湖ホール、令和3年6月に世田谷パブリックシアターにて上演。令和5年初演「TOTEM-真空と高み」は8月に世田谷パブリックシアター、10月からはニューヨークにて上演予定。

5年間の平均で入場目標は120%超と長期継続により市民の関心が高まると共に、事業に関わる表現者への評価も高まっている。
●穴迫信一：THEATRE E9 KYOTOアソシエイトアーティスト第3期／桐朋学園芸術短期大学非常勤講師／セゾン文化財団セゾン・フェローI（令和2年度）
●宮村耳々：北九州劇団代表者会議が選ぶ2018年俳優賞受賞
事業に参加した高齢者自身が演劇作品を創作したり、生まれた戯曲が地域の朗読会で用いられるなど様々な広がりを見せている。
●関連企画として実施した八幡図書館×響ホール×北九州芸術劇場３館連携企画　八幡図書館文化講演会「忘れじの花～少女歌劇団の話@北九州」が文部科学大臣賞「図書館を使った調べる学習コンクール」大人部門を受賞した。

作品に出演した乗松薫と鉄田えみ（ダンスカンパニー“太めパフォーマンス”）が、井手茂太との共同振付・演出によるダンス作品を創作。新作「揺れる肉」を令和4年3月に市内で、10月には静岡県のやどりぎ座でも発表した。

同事業で初めて演劇に触れた参加者が、令和4年度に創作する劇場主催事業、東京デスロック「再生」のオーディションに参加し、出演が決定。同世代の表現者たちに刺激を与え、大学演劇・地域演劇のさらなる活性化が期待できる。

モノレールでの公演は新たな価値観や暮らしへの彩りを提供する事業として、協働先である北九州高速鉄道株式会社内でも評価が高く、継続的な実施につながっている。同モノレール内で年間を通して劇場広告枠を無償で提供いただけるなど、市民と文化芸術の接点も増加させている。

①：事業アシスタントで携わっていた今村貴子が、令和3年の北九州市障害者芸術祭の総合演出を務めることとなった。また同氏は自身のダンス教室にて子育て世代や、障がいがある方とその家族に特化したオンラインレッスンを開講し、表現者としての活動の幅を広げている。レッスンには同事業のメンバーも参加し市民の表現活動の継続にもつながっている。

②：連携団体側が独自の助成金を獲得し事業に係る経費の一部を負担する独自の事業モデルが生まれた。令和3年度以降は地域のアーティストと団体側が主体となり、持続可能なプログラム運営が行える環境を整えていく。

中間

令和2年度を除き入場率は80%を超えた。また公演後のアンケートによる満足度は98%となり、県内外から当劇場のラインナップに信頼を寄せ集う観客が増えている。

令和3年度に全17回目をもって事業は終了したが、市民参加者がアーティストと共同で合唱ワークショップを企画し、活動を継続させる取組が始動。令和5年は新潟や沖縄から140名の参加者が集まり、令和6年の実施についても調整を進めている。

戯曲講座により高校生の戯曲執筆力が上がり、演劇部内で戯曲執筆を担える人材が増えた。令和4年度の県大会では北九州地区の門司学園高校が優秀校、戸畑高校は最優秀校で戸畑高校は九州大会に進んだ。戸畑高校は創作戯曲賞も受賞し、演劇部全体の底上げにつながっている。

新たな応援ダンスとして試合時にスタジアムで踊られ、市民が日常の中でダンスに触れる機会が増大。また地域の小学校の運動会で踊られるといった広がりも見せている。

最終

- 知的財産の流通
- 創造資源の確保（アーティストの住む街）
- 新たな発想（価値）を生み出す環境づくり
- 調査研究・発信

（３）効率性（平成３０年～令和４年度　５か年分）

自己評価
アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに実施できたか。
5 年間において、新型コロナウイルス感染症の影響等で一部計画通りとならない部分もあったが、全体的にほぼ当初の予定通りに実施することができた。 ※新型コロナウイルス感染症の影響があったものについては、〔1 事業概要－(2)～(6)実施事業一覧〕にある事業番号を表記。 ●平成 30 年度 助成対象 19 事業に取り組み、ほぼ計画通りに実施することができた。 →公演事業では国内外の芸術性の高い作品や幼児や子ども向けの作品、社会的価値を持つ作品など多様な作品を上演し、当初の計画通りに遂行することができた。また作品上演だけでなく、事前レクチャーやワークショップなど関連企画の実施に取り組み、劇場や舞台芸術への興味や理解をさらに深める機会を提供できた。人材養成・普及啓発事業についても、ほぼ計画通りの実施となり、概ね目標に到達した。「キタ Q アーティストふれあいプログラム」の学校アウトリーチは、プログラム実施校の児童数が少子化の影響もあってか目標に達することが出来なかったが、実施回数は当初予定を上回った。 ●平成 31（令和元）年度 助成対象 20 事業に取り組み、一部の事業で期間の変更等があったが、概ね計画通りに実施することができた。 →2 月末以降の事業〔1－(5)－8,9,13,19,20〕においては、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けた。『まつわる紐、ほどけば風』では初日公演のみ上演し、その後の公演は関西での公演を含め中止となった。また「北九州芸術工業地帯」でのモノレール公演も公演中止となったが、県外からのアーティストの招聘や、2 日間にわたる出演者オーディションの実施など、多様な対象者に向けてアプローチでき、今後につながる新たな関係性を築くことができた。人材養成・普及啓発事業については、台風や新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け実施期間を縮小せざるを得ない状況となったが、講師とともにプログラムの見直しを行うことで、実施内容自体は大きな変更なく進めることができた。 ●令和 2 年度 助成対象 17 事業を実施予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響による入国制限措置や緊急事態宣言のため 5 事業〔1－(4)－1,2,3,4,6〕が公演中止、1 事業〔1－(4)－7〕は公演回数を 2 回→1 回に変更、その他の事業〔1－(4)－8,10,11,14,15,16〕も一部中止・延期・規模縮小、計画の一部変更などを行った。 →コロナ禍において、公演事業として初のオペラ公演や親子向けの作品などを実施したものの、全体入場率は 51%にとどまった。人材養成・普及啓発事業については、計画の変更や実施規模の縮小など感染防止対策の徹底や実施形態を工夫することで、学校行事が例年通りに行われず、人との出会いや体験の機会が奪われている子どもたちに向けて、演劇やダンスを通して新しい価値観や創造力に触れ、視野を広げる機会を提供することができた。 ●令和 3 年度 助成対象 20 事業を実施予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、海外アーティストが来日出来ない状況となったため海外作品 3 事業〔1－(3)－7,8,9〕が中止、福岡コロナ特別警報の発動を受け夏休み時期に実施予定であった事業など〔1－(3)－12,13,14〕が中止・一部中止、再拡大の影響で年明けの学校アウトリーチ〔1－(3)－18〕も

一部中止となったが、その他事業については概ね計画通り実施した。

→公演事業では、ダンス作品や親子向けの作品、市民参加の合唱作品など、幅広い演目を予定通り実施。入場率 88%を達成し、舞台芸術の多様性を提示し幅広い年齢層に新しい価値観との出会いを創出することができた。人材養成・普及啓発事業についても、利用人数の制限がある中ではあるが感染防止対策の徹底や実施形態を工夫することで、概ね大きな変更なく進めることができた。市民参加型の事業「わたしの青い鳥」、高齢者へのインタビューや取材を行い独自の作品を創作する事業「Re：北九州の記憶」、第一線で活躍する人材をクリエイション・パートナーとして招聘し2年間という長いスパンで地域と劇場に向き合い作品を創作する事業「クリエイション・シリーズ」(『まつわる紐、ほどけば風』)など、アーティストや地域の表現者との関係性を深めている長期継続の事業では、コロナ禍においても、作品創造を止めることなく関連企画の映像配信や劇場初となる公演のライブ配信を実施し、レベルの高い作品創作と幅広い層に向けて事業の主旨や目的を発信するという目的を果たせたといえる。

●令和 4 年度

助成対象 20 事業を実施予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、関係者から陽性者が発生したため公演事業 1 事業〔1－(2)－3〕が中止となった。普及啓発事業〔1－(2)－17〕については、児童養護施設と連携し実施する事業において、連携先が共同生活を行う施設の特性から、コロナ禍での実施が難しく中止となった。また演目変更により 1 事業が要望取り下げとなったが、その他の事業については、ほぼ計画通り実施することができた。

→公演事業では、コロナ禍において上演中止が相次いだ海外からの作品 2 作、延期となっていた市民の足であるモノレールの車内で演劇作品を上演するモノレール公演『きみをさがして』などを実施し、中止した事業を除く入場率は 92%を達成した。人材養成・普及啓発事業については、一部台風や積雪の影響でスケジュール変更となったものがあったが、ほぼ計画通りに進めることができた。「ひとまち＋アーツ協働事業」では、外国人留学生と日本人大学生が、舞踏という日本独自のダンスの体験を通じて国籍を超えたコミュニケーションを図るワークショップを実施した。アフターコロナに向かう中で、身近な場所で異文化や多様な価値観に触れる機会を創出することができた。

5 年間を通して見ると、令和 2 年 2 月末以降新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、中止や延期、規模縮小など事業期間を変更せざるを得ない状況ではあったものの、オンライン配信の導入をはじめ、実施形態の工夫や十分な感染防止対策を講じるなど適切な対応を行い、効率的な事業運営に努めたといえる。

自己評価
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに実施できたか。

5 年間において、一部の事業で予算額と実績額で乖離が見られたものがあった。また、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、全般的に事業費は当初の計画より縮小した形での実施となったが、中止となった事業を除くと概ね計画通りに執行できた。

●平成 30 年度

助成対象経費の総額　予算額 83,966,000 円／実績額 69,515,894 円／要望比：82.79%（予算との差 17.21%減）

→一部の事業において乖離が見られたが、全体でみると当初の予定に比べ 17.21%事業費が減額となった。大きな乖離が見られた事業は、いずれも協働相手のある事業であった。プログラムの見直し等により「東筑紫学園高等学校演劇類型連携事業」では、文芸費、舞台費が大幅に減額（予算との差 99.74%減）。劇場と本市を拠点とする企業等とが協働して行う「地域のアートレパートリー創造事業」では、振付料や舞台費が減額（予算との差 44.28%減）となった。

●平成31(令和元)年度

助成対象経費の総額　予算額83,287,000円／実績額62,610,853円／要望比:75.17%(予算との差24.83%減)

→当初の予算より減額となるものが見られ、乖離が大きくなった。年度末から新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、関西での公演を全日程中止したことで当初予定より大幅な減額となったことが大きな要因のひとつである。人材養成･普及啓発事業では、全般的に実施期間の短縮やプログラムの見直しにより講師料やアシスタント謝金が減額となった。収入面においては、「ひとまち＋アーツ協働事業」で連携先の団体側が助成金申請を行い採択される事例があった。劇場だけでなく地域の様々な領域の団体との連携・協働による実施形態を継続的に行い、互いに信頼関係を築いてきたひとつの結果と捉えることができる。

●令和2年度

助成対象経費の総額　予算額81,755,000円／実績額49,564,770円／要望比：60.63%（予算との差39.37%減）

→新型コロナウイルス感染拡大の影響による北九州市からの劇場閉館の要請（4月9日～6月18日）やそれに伴う事業の中止や規模縮小により、当初予算に比べて全体的に支出が減少し、当初の計画通りに進めることは総じて難しかった。『フィガロの結婚』では、感染拡大や海外キャスト招聘の見通しがつかない中、キャスト変更や全体スケジュールの再調整、それに伴う地元の楽団・合唱メンバーの再調整が発生したことにより、文芸費が大きく増額した。「Re：北九州の記憶」では、学校鑑賞が中止になったが、感染拡大や収容人数制限の影響も見越して一般公演を2回→3回に変更し、収入減の影響を最大限に抑えできるだけ多くの鑑賞機会を設けた。

●令和3年度

助成対象経費の総額　予算額89,135,000円／実績額65,562,309円／要望比：73.55%（予算との差26.45%減）

→新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止となった4事業では、チラシの印刷費、宣伝費等の支出はあったが、その他の費目がほぼ減額となった。感染対策費としてPCR検査費が増額となったことなどにより、一部の事業で実績額が予算額を上回った。また『近松心中物語』では、舞台セットが大規模になったため運搬費が増額となった。全体としては、中止となった4事業を除いた場合、要望時の予算額と報告時の実績額とを比較すると、その差は2,647,113円（予算との差4.1%減）であり、ほぼ計画通りに執行できた。

●令和4年度

助成対象経費の総額　予算額108,188,000円／実績額85,110,917円／要望比：78.67%（予算との差21.33%減）

→いくつかの事業で、当初予算との乖離が見られた。「ひとまち＋アーツ協働事業」では児童養護施設との連携協働事業が中止となったため、講師謝金や旅費が大幅に減額となった。また「山海塾新作公演」では、新作時に必要となる共同制作費を計上したため、文芸費が大幅に増額となった。全体としては、演目変更により要望取り下げとなった1事業を除いた場合、要望時の予算額と報告時の実績額とを比較すると、予算額92,848,000円／実績額85,110,917円／要望比：91.67%（予算との差8.3%減）であり、概ね計画通りに執行できたと考える。

（４）創造性（平成３０年～令和４年度　５か年分）

自己評価
事業計画の内容が、独創性、新規性、先導性に優れている（と認められる）か。
当劇場ではこれまでも、開館当初から続けてきた作品づくりの経験やノウハウを活かした独自の公演や、スポーツや観光、福祉などの他領域との協働による革新的なプログラムなど、様々な形で地域の芸術文化を牽引し、向上させる取組を行ってきた。対象となる5か年を通しては、これまでに生み出された企画を続けながらよりブラッシュアップして実施すると同時に、新たな視点での企画や創作活動にも取り組み、特に地域との向き合い方について、手を組むだけでなくそこで生まれたものをさらに浸透させ広げていくことにも力を入れた。その結果、当劇場ならではの独創的な作品創造や斬新なプログラムの創作と、それらを上演・実施し広げていくことにより北九州ひいては九州圏域全体の芸術文化を牽引することにつなげることができた。 ●当劇場の資源たるキーパーソンの存在、および助成対象活動への反映について 劇場プロデューサー 開館以来、劇場の事業計画やラインナップ内容の責任者としてプロデューサー制を導入しており、現在は開館当初からの職員を育成しプロデューサーとして登用している。これまで一貫して地域と劇場に向き合ってきた経験と視点をもとに、北九州という地域のもつ歴史や特性、主な観客層や来場者の居住エリア、まだ劇場の事業が十分に届いていない世代や領域など、様々な事情を考慮したうえで企画や作品創作、公演の招聘を行い、より地域に根差した事業展開を可能にしている。 ローカルディレクター 地域で活動するアーティスト2名を劇場ローカルディレクターとして配置している。劇団飛ぶ劇場を主宰し、劇作家、演出家として第一線で長く活動する泊篤志は、主に地域の演劇人との交流や作品づくりへのアドバイスを通して劇場との橋渡し役を担っている。「高校生〔的〕シアター」や「シアターラボ」等の人材養成事業では、学生から一般市民まで、対象に合わせて事業を企画・コーディネートし、劇作家・俳優をはじめとした多くの演劇人の育成に寄与している。また劇団演劇関係いすと校舎の代表である劇作家・演出家 守田慎之介も、ともに上記育成事業に関わる他、学校アウトリーチを実施するアーティストとしても積極的に関わりながら、そうした活動を通して地域の現状を把握し、稽古場を活用して子どもたちが演劇や劇場に親しむきっかけを作る事業を実施した。また両名ともに、全国の演劇関係者との関係性の構築や地域とのつなぎ役も担っており、後述のクリエイション・パートナーとの作品づくりにも深く関わりながら、本公演に先駆けて短編2作を作・演出しカフェにて上演するなど、地域への多角的なアプローチとクリエイションの多様性を提示している。 地域の表現者（俳優・ダンサーなど） 「ひとまち＋アーツ創造事業」「キタＱアーティストふれあいプログラム」など、全国からアーティストを招いてワークショップやアウトリーチを行う際、アシスタントには地元の人材を積極的に起用している。第一線で活躍するアーティストと同じ現場を経験することは、対象との向き合い方や接し方、プログラムの構成や進行など多くを学ぶことができる機会となっている。また、アシスタントを経た地元アーティストにその後ワークショップやアウトリーチの講師依頼をすることで、アーティストが地域で長く活動する土壌や環境づくりにもつなげている。「キタＱアーティストふれあいプログラム」のアシスタントをつとめているダンスユニット・太めパフォーマンスは、その後の学校アウトリーチに講師として出向き、子どもたちにダンスを広げる役割を担っている。

自己評価
事業計画の内容が、独創性、新規性、先導性に優れている（と認められる）か。

●助成対象活動の独創性・新規性・先導性について

独創性

・開館翌年より続く市民参加作品「わたしの青い鳥」は、8 歳から 80 歳代まで幅広い年齢が一緒に参加できる本格的な舞台として市民に愛されてきた。ここまで広い年齢層での作品創作は全国的にも希少であり、親子 3 世代での参加も少なくない。学生から社会人、高齢者まで様々な環境の人々が一堂に会して稽古、本番へ向かうために、練習方法や進行、演出やパート割に至るまで細かな工夫を凝らしながら実施しており、参加者はもちろん、関わるスタッフも含めた総合的な創造力が必要とされる、北九州芸術劇場ならではのコンテンツである。

・令和 4 年度で 11 年目を迎えた「Re：北九州の記憶」は、“高齢者の記憶を戯曲にして残す”という新しいアイデアを形にし、創作を続けてきた事業である。インタビューをもとに高齢者それぞれが呼び起こした記憶が物語となり多くの観客の胸を打つとともに、インタビュー対象者もこれをきっかけにまわりの人とのコミュニケーションをとり始めたり、観劇するために劇場へ出向いたりと新たな目標や生きがいを得ることとなった。劇作家には地元の若手劇作家を起用し、創作の過程で高齢者へインタビューを行い、それをもとにフィクションとして戯曲を書き上げるという独自の仕組を用いている。構成・演出の内藤裕敬による戯曲講座の中で戯曲をさらにブラッシュアップしていくなど、この事業を通じて劇作家の育成というミッションにも取り組んでおり、公演（作品創造）事業でありながら人材養成と普及啓発も担う、大変稀有な事業であるといえる。

・北九州市身体障害者福祉協会との協働事業であるダンスプロジェクト“レインボードロップス”では、2 年間にわたり創作したダンス作品『こんなにも、家族』（平成 31 年度）を上演した。障がいのあるなしにかかわらず、参加者たちが一緒に作品を創り上げることで、福祉分野との協働としても、またバリアフリーの観点からも、参加者と観客それぞれに新たな気づきや価値観を生み出すきっかけを作ることができた。また、構成・演出のセレノグラフィカとのタッグによるクオリティを重視した作品創作にもこだわり、ワークショップの発表の場ではなくダンス作品の公演として、より多くの人々に向けてのアピールや発信を行い、芸術性にも優れた、他に例を見ないプロジェクトを完成させた。

・「クリエイション・シリーズ」では、第一線で活躍する演出家をクリエイション・パートナーとして招聘。1 年目は地域を知るためのリサーチや市民との交流、2 年目に作品づくりを行うという、長いスパンでの実験的な作品創作に取り組んだ。1 作目『まつわる紐、ほどけば風』（令和 3 年度）では、演出家・岩崎正裕と手を組み、地域と向き合う中で得たものが反映された作品を上演できたことに加え、岩崎氏のモノづくりへの視点や発想、ノウハウが、関わったキャストやスタッフを通して地域に還元されるという好循環を生んだ。令和 4 年度には 2 作目に向けて新たに松井周をパートナーに迎え、地域の人々との交流や施設の訪問などを通して、北九州を知り、作品創りの種を育てる取組を進めている。

新規性

・井上道義指揮／野田秀樹演出という鬼才のタッグによる『フィガロの結婚』（令和 2 年度）では、自主事業としては初めてのオペラ公演に取り組んだ。作品を上演するだけでなく、地元の楽団である響ホール室内合奏団がオーケストラを担当し、コンサートマスターには北九州出身のバイオリニスト・南紫音を配するなど、北九州ならではの作品づくりを目指した。また、公演に合わせて地元で活躍する声楽家を集めた合唱団を結成し、作中にて合唱パートを担当。第一線で活躍するオペラ歌手や俳優との共演を通して、地域の音楽家たちにとって大変得難い経験を提供することができた。

・当劇場ではこれまで、工場夜景クルーズ船の船上や市内を走るモノレールの車内など北九州市固有のロケーションを舞台にした作品創作にも取り組んでおり、観光的要素はもちろん、北九州市民にとって見慣れた場所に新しい価値を見出す機会としても注目を集めてきた。門司港栄華の象徴とも言われる築 90 年の旧料亭三宜楼にて上演したダンス公演『うろきんさ』（平成 30 年度）では、場所や歴史からインスピレーションを得たアーティストとともに、歴史的建造物を舞台にダンス・音楽・演劇（朗読）が交錯するという今までにないジャンルレスで革新的な作品を創作し、大きな反響を呼んだ。また、モノレール公演『きみをさがして』（令和４年度）を新たに創作。街なかでの“非日常”体験に加え、宮沢賢治作『銀河鉄道の夜』をモチーフに、地元の演奏家による生演奏や、北九州市ゆかりの漫画家・松本零士作『銀河鉄道 999』のラッピング車両を使用するなど、様々なアプローチによる北九州ならではの作品創りが大きな話題となった。

先導性

・世界を舞台に活躍する舞踏カンパニー・山海塾の新作公演『Arc 薄明・薄暮』（平成 30 年度）、『TOTEM 真空と高み』（令和 4 年度）では、世界に向けたワールドプレミア公演を北九州にて行った。国内だけでなく海外からの注目度も大変高い山海塾作品の世界初演を行うことで、世界レベルの舞台芸術を身近な場所で鑑賞する機会を観客に提供するとともに、世界に向けた発信やアピールにもつながり、我が国の芸術水準の底上げに寄与した。

・公演事業については国内の主要劇場と共同で海外作品を招聘することも多く、特にダンス演目においては、日本初登場や関西以西では北九州のみでの上演となるものもあり、九州をはじめとした近隣の圏域に向けて、上質な作品の貴重な鑑賞機会を提供する役割を担っている。

・九州の新たなダンスムーブメントを生み出すことを目指して実施したダンスクリエーション『ギミックス』（平成 31 年度）では、井手茂太が北九州に滞在して作品を創作し、北九州・宮崎・熊本にて上演した。各地の主催者と協働しながらワークショップも実施（大分でもワークショップのみ実施）、新たなつながりや各地のダンサーとの交流が生まれるとともに、上質な作品を九州で循環させることで、九州全体のダンス文化の底上げにもつなげることができた。

・「Re：北九州の記憶」においては、作品創作や劇作家の育成に加え、戯曲や作品を残すだけでなく地域の中で活かすことを目指し、市民センターや市立図書館での朗読上演会などを続けている。こうした取組は、作品を生み出した後、それを地域に広げてアーカイブしていくひとつのモデルケースとしても注目されており、視察やヒアリングの要望も多く寄せられている。また、令和 4 年度には初の東京公演を実施し、好評を博した。『ギミックス』での九州ツアーと同様、作品を北九州外の地域で発表することは、より多くの観客に届けられるのはもちろん、キャストやスタッフのスキルや魅力を広くアピールする機会にもなり、地域の演劇人たちのモチベーションや刺激にもつながっている。

自己評価

事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につなげた（と認められる）か。

5 か年を通して「公演事業」「人材養成事業」「普及啓発事業」という多角的な事業を行うことで幅広い対象者からの反応を獲得するとともに、積極的な広報活動にも重きを置き、外部メディアからの客観的な発信獲得と自社メディアからの主体的発信を行い、着実な評価向上につながったと考える。外部からの発信は、プログラムの特性や新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり主に北九州市内および九州圏内にとどまったが、一部事業にて全国紙での記事掲載や、先駆的なプログラムへの視察受入等を通して広く国内へ当劇場の取組を発信することもできた。また主体的発信の強化として、平成 31 年度には公式 LINE、令和 2 年度には公式 Instagram を新たに立ち上げた。いずれも登録者は右肩上がりであり、今後はさらに各メディア特性を活かした活用方法を検討していく。

◎累計メディア掲載実績（助成対象事業のみ）

紙媒体・WEB	テレビ・ラジオ
2,082 件	177 件

◎自社メディア活用状況

ホームページ 年間閲覧回数	Twitter フォロワー数	LINE お友達数	Instagram フォロワー数	YouTube 登録者数	Facebook フォロワー数	メールマガジン登録者数
1,035,429 回 (1,208,504 回)	8,020 人 (6,252 人)	1,707 人 （ー）	1,293 人 （ー）	890 人 (166 人)	606 人 （ー）	9.225 人 （ー）

＊登録者数は令和 4 年 3 月末現在。() 内数値は助成 1 年目、（ー）は助成期間内に新規立ち上げ。

●全国区での評価

平成 18 年よりパリ市立劇場との共同プロデュースで実施している舞踏カンパニー・山海塾の公演では、平成 30 年度に新作『Arc 薄明・薄暮』の世界初演を行い、日経新聞と朝日新聞の 2 紙にて取り上げられた。同公演後には世界ツアーが予定されていることも報じられ、世界的カンパニーの公演を本市でいち早く見られるという地域のアピールにもつながった。

地域課題と向き合いプログラムを行う「ひとまち＋アーツ協働事業」では、平成 31 年度に北九州市身体障害者福祉協会との協働でダンス作品を創作。平成 25 年のプレ事業から 7 か年の継続で発展して来た同事業は、障害者福祉×舞台芸術の先進的事業として全国の自治体や公共施設から関心が寄せられており、令和 4 年度までに 8 件の視察受入や外部講師の派遣を行っている。同じく平成 31 年度に本市と兵庫県伊丹市で上演を予定していたオリジナルの演劇作品『まつわる紐、ほどけば風』では、制作発表会見を両市で実施。新型コロナウイルス感染拡大の影響により上演が北九州初日公演のみとなり掲載に至らないものもあったが、今後の関係性構築にもつながった。また公演中止時には、未曾有の事態に直面した現場の声を Twitter で発信。リツイート 1,422 件、いいね 2,300 件と、劇場 Twitter 開設以降で最も大きな反応となり、舞台芸術界内外へ劇場の存在意義を提示した。令和 3 年度の延期公演は北九州公演のみであったが、関連企画として YouTube での短編作品の配信（再生回数 617 回）や、公演のライブ配信（視聴券販売数 100 人）も行い、全国の観客にも届けることができた。

またコロナ禍による劇場休館あけ直後の公演として実施した『フィガロの結婚』では、長らく劇場へ訪れることの出来なかった観客への期待に応える取組として、Twitter にてゲネプロ動画の配信や、出演者らによる公演カウントダウンメッセージの配信を実施。全 7 回の総再生回数は 30,014 回となり、九州圏域のみならず全国の演劇・音楽・舞台芸術ファンからの反応が寄せられた。

●九州圏域での評価

平成30年度には、作・演出・出演を九州出身のメンバーのみで構成したオリジナルの演劇作品『せなに泣く』を創作。新たな創造作品の形として、制作発表会見のダイジェスト（再生回数1,145回）や、公演に向けた出演者紹介（再生回数1,630回）など動画を活用した発信も積極的に行い、“九州男児”をモチーフに描く地域性の高い内容と相まって開幕前から期待を寄せられた。公演後には地元の主要四紙にて取り上げられ、特に読売新聞（平成30年12月15日付）では「舞台芸術制作における九州演劇界の底力を改めて示した」と評され、九州圏域の拠点施設としての評価を高めた。

また平成31年度には、井手茂太振付による劇場初のオリジナルダンス作品『ギミックス』を創作し、九州内ツアー（宮崎・熊本）を実施。九州圏域ではコンテンポラリーダンスの公演数が多くないため、集客だけでなく作品への期待値を高めることや理解を促すための発信にも重点を置き、YouTubeにて計5本の動画を公開、4,639回の再生回数を獲得した。来場した観客からは「初めてのコンテンポラリーダンスは難解ではあったが、自分なりの解釈を探求する面白さを感じた」といった声も寄せられ、九州圏域の拠点施設として、舞台芸術の多様さや新たな価値観を県内外へ提示することができた。

●市内近郊での評価

市民参加型の創造事業として開館翌年より実施してきた「わたしの青い鳥」は、令和2年度に最終ステージを迎える予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で延期。延期を惜しむ参加者や観客の声に応えるため公演予定同時刻にオンライン企画を実施し、実施予定であった中劇場のキャパシティを超える1,093人（アーカイブ含む）に視聴いただいた。平成30年度～令和3年度（令和2年度は中止）の総参加者数は224名にのぼり（事業開始からの総参加者数は1,408名）、最終年度には「人生の終盤で音楽の楽しさを知り、沢山の方と出会えた」（80代男性）、「忙しい毎日の中で忘れていた大切なことに気づける貴重な時間でした」（40代女性）など、参加者から多くの感謝の声が寄せられ、同事業が市民の生活に深く根付き、劇場への愛着と信頼を高めていたことを示している。

前述した「ひとまち＋アーツ協働事業」のうち、若者の就労支援を行う地域団体との協働で行った芸術体験プログラムは「悩み抱える若者の表現力育成。参加者、再就職する成果も」と西日本新聞（令和2年1月26日付）で報じられ、地域社会と向き合う劇場の姿を発信することができた。また令和 3～4 年度には、コロナ禍で孤立化が進む留学生を対象に日本独自の前衛舞踊・舞踏の体験プログラムを実施。参加者からは「日本独自の身体表現を体感する中で、日本ならではの感性に触れることができた」といった感想が生まれるとともに、令和4年度は小作品の発表を通して観客にもその姿を提示。文化芸術体験を通して異文化や他者への理解を深めることの喜びを広く発信することができた。同事業はその後、文化芸術を通した共生社会実現のアプローチの好例として、メディアからの問合せにつながった。

また「北九州芸術工業地帯」のプログラムとして実施した、歴史的建造物内でのダンス・音楽・演劇（朗読）の融合によるパフォーマンス『うろきんさ』では、公演後に地元三紙で舞台写真とともに大きく取り上げられ、特に読売新聞（平成30年10月3日付）にて「地域に根付いた舞台芸術の発信を目指す北九州芸術劇場の志向が示された、挑戦的な試みだった」と高く評された。同様に地域資源を活用したプログラムであり、コロナ禍の中止を受けて令和4年度に延期実施（当初予定は平成31年度）したモノレール公演『きみをさがして』は、延期公演決定時からSNS等を通した観客の期待値が伺え、チケットはシリーズ初の全公演即日完売となった。またNHKによる取材番組は当初市内のみでの放映予定だったが、放映後の反響が大きくその後県内、全国へと放映が拡大。北九州という地域の独自性とともに、舞台芸術によるまちの魅力づくりの好例として、広く全国から関心が寄せ

られた。

●SNS を通した広がりや自社メディアによる発信

平成 30 年度に地元プロサッカーチーム・ギラヴァンツ北九州との協働で創作した「ギラダンス」(「地域のアートレパートリー創造事業」内）では、コロナ禍でおうち時間が増える中、SNS でダンスを踊って投稿して貰う参加型企画を実施。ギラヴァンツ北九州の選手にも広報協力として参加いただき、YouTube で公開した振付レクチャー動画等の再生回数は 4,398 回、SNS 上に投稿された動画の再生回数は 11,019 回となり、通常の事業実施のみではアプローチ出来ない層にも、ダンスの楽しさや劇場の取組を届けることが出来た。

●「Re：北九州の記憶」での取組

令和 4 年度に 11 年目を迎えた「Re：北九州の記憶」は、市民・観客・劇作家・出演者・スタッフなどあらゆるステークホルダーからの信頼や評価向上につながっている事業である。まちに暮らす高齢者の記憶から地元の若手劇作家が戯曲を執筆し、地元の俳優が演じるというプログラムは、高齢者の社会参画、地域文化の未来を担う人材の育成、作品を通した地域の魅力発信など、多様な視点から毎年メディア取材も絶えず、5 年間でのメディア掲載数は 196 件にものぼる。

令和 4 年度には初の市外ツアーとして東京公演を実施し、アフタートークと併せて企画主旨や 11 年間の成果を含め発表することができた。観客アンケートでは「九州にはゆかりがないが、自身の中で眠っていた何かを呼び起こす」「地域や市井の人と丁寧に向かうプロジェクトに心からの拍手を送りたい」といった声も寄せられ、地域ならではのプログラムの可能性を広く全国へ提示する好機となった。公演終了後には、全国紙の新聞社からも関心の声をいただくとともに、他県の公共ホールや演劇研究団体からの講演依頼も寄せられた。また令和 3～4 年度には（当初予定は令和 2～3 年度）「学芸事業調査分析→発信事業」として、本事業の「事業実施による成果」と「地域への波及効果」に関する評価分析を（株）ニッセイ基礎研究所への委託のもと実施し、レポートとして公表。事業に参画して来た人々の生の声と専門家による考察を通して、地域の記憶の伝承や人材育成といった当初の目的を超えて、劇場を核とした地域コミュニティの再生や公共劇場の価値創造など、全国的にも稀有な公共の事業モデルとして評価を得ており、同事業は今後も舞台芸術業界内外においてさらなる発展が期待されている。

＊本文内の再生回数等は令和 5 年 3 月末現在の数字。

（５）持続性（平成３０年～令和４年度　５か年分）

自己評価
事業計画を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

事業運営

当財団は、北部九州域でも有数の文化拠点である「北九州芸術劇場」、全国的にも優れた音響効果を誇る音楽専用ホール「響ホール」、芸術文化活動支援施設「大手町練習場」の3つの芸術文化施設等の指定管理者として施設の管理運営を行うほか、芸術文化活動の振興に関する事業、埋蔵文化財の発掘調査等を行い、市域の芸術文化活動の振興に総合的に取り組んでいる。

本事業計画においては、北九州芸術劇場のビジョンである「観る」「育つ」「創る」「支える」をもとに、文化芸術による創造的な地域の活性化と都市の再生を目指し事業を展開した。計画していた事業のうちいくつかは、令和 2 年からのコロナ禍により中止や事業内容の変更を余儀なくされたが、困難な状況においても、芸術に触れる機会を確保するよう、動画撮影及び配信サイトへの投稿を行う等、柔軟な取組を進めたことは、職員の成長や新しい事業展開につながった。

経営戦略

持続的な事業運営と組織の成長のために、国、地方自治体からの指定管理料や補助金のみならず、多様な財源を確保することに取り組んだ。

当財団は、平成 31 年 4 月 1 日から令和 6 年 3 月 31 日まで、北九州市の指定管理者として第 5 回目（通算 20 年）の指定を受け、指定管理料収入を基礎とした財務基盤を確保している。そのほか、市、国、民間の助成金、補助金の確保に努め、文化庁、地域創造等からの助成金を得た。ただし、当財団の収入の大半は指定管理料、市、国からの補助金で占められており、多様な財源を確保できているとは言い難い状況である。そのため、本事業計画期間中に次の取組を行い、積極的な外部資金の獲得に努めた。

当劇場のこれまでのノウハウを活かした福祉団体との連携事業で、経費の一部を外部団体が負担する事業モデルを実施し現在も継続している。令和 2 年度には、経営基盤を築き、新規事業の企画・実施を行うための部署を新設。顧客ニーズに即したサービスの提供や財源確保のため、会員制度の見直しを行った。令和 4 年度には、更なる運営財源の獲得と財団の経営基盤の強化を図るため組織体制を見直し、経営企画室を新設。財源の多様化を図る一方で財団のブランディング、SNS での展開にも注力。令和 4 年 4 月から、財団のブランディングと収益化を狙い財団オリジナルグッズの販売を開始。現在、令和 5 年度中に寄付制度の導入を目指し制度設計を行っている。寄附、協賛等については、今後も取組を続け、広く支援を得られるように働きかけていく。

人事戦略

近年、コロナ禍による舞台芸術活動の制限やライフスタイルの多様化、加えて北九州市が抱える人口減少の問題や高齢化に伴う課題など、時代の変化は大きく、地域が抱える問題も多い。そんな中、財団が目的とする「市民生活の向上と市民の豊かな芸術文化の振興に寄与」するには、財団の組織強化が必要との観点から、平成 30 年度より組織目標のコンセンサスづくりと個人の能力を最大限引き出し活用する方法を検討（P）。中長期的なビジョンのもと、令和 2 年度から組織改正、人事制度改正を行い（D）、組織機能力の向上と個々の職員の能力の向上を図っている。具体的な取組は以下のとおり。

・高い専門能力を身に着けた財団有期職員の無期雇用を可能とするキャリアアップ制度を導入し、無期雇用職員の段階的な増加を図った。
・職員から事業運営・経営に関わる人材を育成するため、各分野に専任チーフポストを配置。
・総合力の高い人材の継続雇用と長期的な活躍を実現するため主任制度と主任総合職の定期昇給制度を導入。

・劇場運営に係る多方面の知識を持つ人材を育成するため、一定の勤続年数を経て専門的なスキルを培った人材のジョブローテーションを開始。
・採用を SPI3 テスト方式に変更し、オンラインでも受験可能な SPI3 テスト方式を導入。全国からの人材募集を可能とした。
・内部研修に加え以下の外部研修へ積極的に参加し、人材育成に努めた。
（福岡県文化団体連合会主催地域文化芸術フォーラム／文化庁・全国公立文化施設協会九州支部主催・地域別劇場・音楽堂等職員アートマネジメント研修会／全国劇場・音楽堂等アートマネジメント研修会／（一財）地域創造ステージラボ 等）

ネットワークの構築

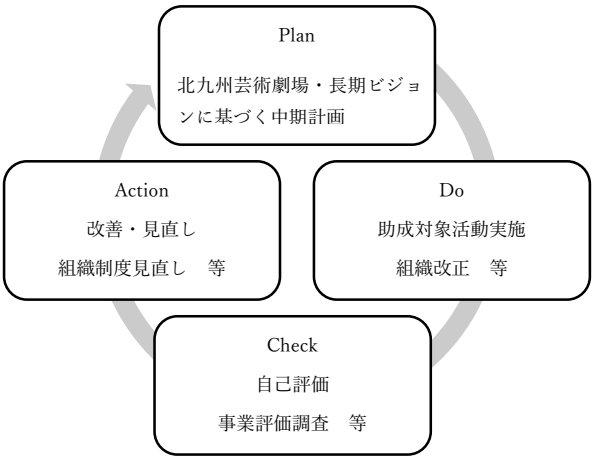
首都圏や中部、関西地方にある劇場との連携協力による海外演目の招聘や各劇場製作の作品の上演などにより、国内の劇場・音楽堂等とのネットワークを構築。

また、九州圏域の地方公共団体の文化行政担当者、近隣の公立文化施設関係者、地域を担うコーディネーター、アーティストの育成及びネットワークの構築に資する研修事業「劇場塾」の実施や、地域の様々な領域の団体（北九州市身体障害者福祉協会や北九州市社会福祉協議会等）とアーティストが協働し舞台芸術の持つ力を活かして地域課題を解決する「ひとまち＋アーツ協働事業」の実施を通し、地域に根差した公共劇場として、舞台芸術分野はもちろん多方面の分野と協力・連携するネットワークを構築した。

●前述の 4 点における組織活動の変化を踏まえ、以下のとおり自己評価するもの

本事業計画「創造都市＝クリエイティブ・シティ実現に向けた『北九州芸術劇場・長期ビジョンに基づく中期計画』」をもとに具体的な企画を練り（P）、各助成対象活動を実施（D）。自己評価等の機会を活かした振り返り(C)をもとに検証を行い、改善案を組み立てる(A)、という PDCA サイクルを活用することによって、組織活動の持続的な成長につなげている。チェック（c）においては、本助成金での自己評価はもちろんのこと、外部機関に委託して実施している事業評価調査、定期的な指定管理者、市外郭団体としての活動状況報告等の機会を活かした振り返りや、組織や個人の目標設定・自己評価を通じての振り返りを実施しており、組織としての課題を発見し、更なる成長へつなげるための取組を行っている。

まだまだ発展途上の要素も見られるものの、問題意識や今後の課題などを財団内で共有し、これからのビジョンを描くことができたことは、少しずつではあるが組織活動の持続的な発展につながっていると考える。今後も、この PDCA サイクルを継続して活用し、組織、個人の能力の向上を図っていくことで、組織活動の持続的な発展を目指したい。



自己評価
持続的なアウトカムの発現・定着が期待できるか。

本事業で期待される主なアウトカムについての持続的な発現・定着への期待は以下のとおり。

知的財産の流通

地方においても首都圏と変わらず舞台芸術を享受できる環境を作り、地域間格差を解消するとともに、中四国・九州圏域を牽引する役割を果たし地域ネットワークを形成することをアウトカムとして設定し事業を行った。本事業の結果、多様な舞台芸術を鑑賞する機会を提供したほか、公演後のアンケートでは98%という高い満足度を上げ、地方における貴重な鑑賞機会を創出し、地域間格差の解消につなげることができた。また、舞踏カンパニーと共同製作した作品は、世界初演後国内外での上演を重ねており、その取組や上演において西日本・九州圏域を牽引する役割を一定程度果たしていると考える。

ただし、新しい観客層の獲得には課題が残った。コロナ禍で達成が難しい状況が続いたが、今後はコロナ禍前の水準回復を目指す。

創造源の確保（アーティストの住む街）

第一線で活躍するアーティスト、地域で活動する表現者、市民とともに、創造活動に挑戦し作品上演することで、表現者の育成や新たな人材の発掘に継続して取り組み、地域の創造的な活動の場の広がりにつながった。

市内で暮らす高齢者の記憶を地元若手劇作家がオリジナルの戯曲として残していく「Re:北九州の記憶」事業は、令和4年度に事業実施から11年目を迎える長期事業であり、平成30年度～令和3年度の4年間で37本の戯曲が生まれた。また、そこで生まれた戯曲をもとにして、北九州近郊で活動する人材とともに新たな作品を創り続けることができた。このことからも、長期的な視点を持った事業を継続して実施していくことで、街にアーティストを生み、その確保につながっていると捉えている。

新たな発想（価値）を生み出す環境づくり

指標の達成状況はアウトカム発現のレベルまで達することができなかったが、「ひとまち＋アーツ協働事業」等での舞台芸術が持つ創造的な力を活かし、教育、福祉等の多様な領域と連携して地域の課題の解決を図る試みは、参加者に新たな価値観への気づきを促した。この試みは、地域や多様な団体に受け入れられ、連携団体側が独自の助成金を獲得し事業に係る経費の一部を負担する事業モデルが生まれている。今後も、地域のアーティスト、団体、劇場が協働し、プログラムを行う環境を整えていくことで持続的なアウトカムの発現を促したい。

また、地域の未来を担う子どもたちや若年層に向けた交流・体験事業を学校や施設などに出向いて実施する事業においても、舞台芸術が持つ力やアーティストとの出会いにより、地域住民の新しい文化活動の広がりにつながるケースも出てきているなど、様々な事業が地域のステークホルダーからも評価され、このような継続的な劇場の活動により地域における新しい発想を生む環境づくりが定着している。

調査研究・発信

事業実績データ及びアンケート調査データに基づく定量評価とテーマ別のグループインタビュー等による定性評価を合わせた事業評価を実施。さらに、「学芸事業調査分析→発信事業」として、「Re:北九州の記憶」の事業実施による成果と地域への波及効果を評価分析する取組も実施した。

しかし、調査研究・発信については、事業計画と目標・指標の設定が連結していないため、アウトカムの発現が認められない状況となった。